

上田藩主松平家の浄土宗信仰について

石 川 達 也

一 はじめに

本稿では近世における大名家の信仰の実態として、江戸時代中期の信州上田藩藩主で京都所司代や老中を歴任した松平忠周（一六六一—一七二八）を取り上げてみたい。筆者はかつて関東十八檀林の数ヶ寺に残されている松平忠周の室光寿院の位牌から、増上寺三六世顕誉祐天と松平忠周および光寿院の交流について検討した⁽¹⁾。そこでは光寿院が祐天を信仰し、当麻念仏院・天徳寺・高德院（鎌倉大仏）の常念仏に關与し、夫婦共に祐天から血脈を受け、法名を授かったことなどを報告した。そこで本稿では松平忠周（歡喜院）の事跡についてまとめられた『歡喜公実録』⁽²⁾を中心に忠周の菩提寺、特に浄土宗大本山金戒光明寺との関わり合いから浄土宗に関する信仰をみていきたい。『歡喜公実録』はいくつかの欠本があるものの、享保三年から同一一年にわたる京都所司代・老中時代の忠周の事跡を知ることができる史料である。また菩提寺

の一つである金戒光明寺の記録も参照したかったが、安永四年（一七七五）以前の日鑑は現存していないため、『知恩院日鑑』などを参照しつつ検討していきたい。

二 移転する菩提寺

まず上田藩主松平家（以下松平家と略す）の菩提寺について整理しておきたい。松平家は松平忠晴から始まる藤井松平氏の分家で、代々伊賀守という官名に任命されているので松平伊賀守家とも呼ばれている。

初代の忠晴は慶安元年（一六四八）丹波国亀山藩主となっているが、明暦四年（一六五八）父信吉（光照院）の菩提を弔うため亀山に光照院（浄土宗）を開基している⁽⁴⁾。忠晴は寛文七年（一六六七）に隠居して忠山と号し、同九年三月二三日に亀山にて死去し、神式で葬られたという⁽⁵⁾。忠晴には三人息子がいたが、長男忠俊は正保二年（一六四五）に夭折したため、次男忠昭が跡を継いでいる。忠俊は江戸天徳寺（浄土宗）に

葬られ、それ以降天徳寺は江戸における松平家の菩提寺となっている。

二代の忠昭は、寛文七年に父忠晴の隠居により亀山藩主となり、天和三年（一六八三）閏五月四日に亀山で死去し、京都金戒光明寺に葬られた。松平伊賀守家で金戒光明寺に葬られたのは忠昭が最初である。

忠昭の跡を継いで亀山藩主になったのは忠晴の三男忠周で、貞享三年（一六八六）武蔵国岩槻藩へ四万八千石（そのうち一万石は和泉国）で所替えになったことにより、父忠晴の墓所を亀山から和泉府中（大阪府和泉市）の豊国寺へ遷し、亀山の光照院も岩槻に移転している。⁽⁶⁾元禄五年（一六九二）七月一三日に忠周は忠晴の諡号を仏教式の戒名に改めている。戒名は祐天が授け、誉号は光照院の住持が授けたという。⁽⁷⁾同一年二月に但馬国出石へ四万八千石で転封となると、和泉国の一萬石は召し上げられ、忠晴の墓所を和泉府中から出石谷山に遷している。同様に光照院も岩槻から出石に移したと考えられる。宝永三年（一七〇六）一月に信濃国上田藩（長野県上田市）へ五万八千石で転封となり、この年に忠晴の墓所を出石谷山から京都称念寺（浄土宗）に遷し、光照院を上田に移転している。称念寺は忠晴の父信吉と忠晴の兄忠国の墓所がある関係から、忠晴の墓所に選ばれたと考えられる。このように松平家の主な菩提寺は江戸・京都・国許にあり、国

上田藩主松平家の浄土宗信仰について（石川）

許の菩提寺光照院は転封の度に移転していたことが分かる。

三 金戒光明寺との関わり

享保二年（一七一七）九月一八日に忠周の室光寿院が江戸青山の下屋敷で没し、同月二二日に天徳寺で葬儀が行われ同寺に埋葬された。その五日後の九月二七日、忠周は京都所司代に任命され、京都に赴いている。

享保三年四月二九日から晦日までの二日間、知恩院において家継の三回忌法要が執り行われた。忠周は京都所司代として二九日のみ参詣し、晦日は光寿院の遺骸を天徳寺から金戒光明寺へ改葬するため参詣していない。⁽⁸⁾五月一六日から一八日の三日間金戒光明寺で光寿院の法事が行われ、⁽⁹⁾知恩院住職沢春も一七日に焼香に出向いている。⁽¹⁰⁾その法要に先立ち当麻念仏院から知恩院へ次のような申し出があった。

先達而不断念仏之義、御願申上候而、首尾能開白相務申候、御施主者、松平伊賀守殿二而候得共、隠蜜仕之旨被仰渡候故、態不申上候、此度於黒谷、御法事執行有之、明十六日御焼香仕候様、被仰渡候、就夫、未内参内をも不仕候得者、香衣着用難成候、何とそ少之内御免許被成下候様願、因茲来御忌之節、内参内可仕之段、証文をも被致候ハ、御免許可被成之旨、宿坊迄内意申入候事、⁽¹¹⁾（傍線部は筆者）

つまり当麻念仏院は金戒光明寺で行われる光寿院の法要で焼香するように命じられたが、まだ内参内を済ませていない

上田藩主松平家の浄土宗信仰について(石川)

ので香衣を着用する資格はないが、来年には内参内するので香衣を着用することを許可してほしいということであった。ここで注目すべき点として常念仏の施主は松平忠周であったが、忠周の意向で内密にされていたということである。それがどのような理由で内密にしたのか不明ではあるが、上田藩の公式記録といふべき『歡喜公実録』に当麻念仏院の常念仏に関する記述は見られなかった。当麻念仏院の常念仏について『御家譜 全』⁽¹²⁾によれば享保三年二月一八日に祐天が開白したとあるが、祐天は増上寺を隠退し芝西応寺に隠居していたので現地には赴いてはいない。⁽¹³⁾『知恩院日鑑』によると現地では四月八日に開白したようである。⁽¹⁴⁾なお八月一四日に当麻護念院が知恩院にやってきて、念仏院の常念仏について当院や奥院にこれまで何も届け出がないので承認できないと申し立てた。⁽¹⁵⁾そこで閏一〇月一四日に忠周が知恩院に参詣した折に当麻念仏院について便宜を働きかけたので、⁽¹⁶⁾同月二七日に当麻護念院と奥院が知恩院に呼び出され証状に連判することとで解決している。⁽¹⁷⁾

忠周は享保九年一二月一五日に老中に就任しているが、翌一〇年一月二二日に忠晴の墓所を称念寺から金戒光明寺の本堂の後へ改葬している。⁽¹⁸⁾金戒光明寺には土蔵造りの忠晴の霊屋が現存しており、その棟札を見ると、享保一〇年十一月建立となっている。また同年三月一三日に諸寺院への寄付の内

訳を出している。金戒光明寺へは、

御五方佛供料

高百五拾石

黒谷方丈

此米六拾石⁽¹⁹⁾

とあり、享保一三年六月に忠周の子忠愛が寄進した「松平伊賀守御仏供米寄進状」⁽²⁰⁾にも同様に高一五〇石(米六〇石)が寄進されている。御五方とは忠晴・忠昭・光寿院・忠周の猶子藤井忠弘(深光院)と忠周を指すと考えられ、「寄進状」には、

歡喜院前伊賀守存生之日令進附之、終焉之時猶被及其事候、因茲隨遺言到後孫迄代々無違變令寄附候、

とあり、忠周(歡喜院)が松平家関係寺院の中で最も多い一五〇石を寄進していることから、忠周が金戒光明寺に葬られることを希望していたと推測される。

享保一三年四月三〇日に忠周が没すると、忠周の遺骸は五月八日に江戸を立ち、五月二一日に金戒光明寺の塔頭歡寿院に到着した。その日のうちに本堂で葬儀が行われ、光寿院の墓所の隣に葬られた。⁽²¹⁾

四 まとめ

これまで検討してきたように、松平忠周の個人的信仰である当麻念仏院の常念仏などは上田藩の公式記録である『歡喜

公実録』には見られなかったが、『知恩院日鑑』などから忠周が当麻念仏院に対して便宜を図っていたことが確認できた。また松平家の菩提寺は京都、江戸、国許にあったが、国許の菩提寺は忠周の転封の度に転封した。国許にあった忠晴の墓地も同様に転封し、最終的に金戒光明寺へ改葬された。転封の多かった忠周はそれに左右されない京都の寺院へ菩提寺を求めたと考えられる。また光寿院の墓所を江戸から京都へ遷し、忠周自身も金戒光明寺へ葬られることから、忠周の金戒光明寺への特別な信仰があったと推測される。その後の藩主は江戸天徳寺に埋葬されたが、毎年金戒光明寺へ松平家関係寺院の中で最も多い寄進が行われていたことは、上田藩主松平家の浄土宗信仰を物語る証左といえよう。

- 1 拙稿「祐天と光寿院―十八檀林に残された位牌をめぐる―」（『大正大学総合佛教研究所年報』三四、二〇一一）。
- 2 上田市立博物館蔵 松平文庫二八七。現存巻数は二（享保三年一月から五月）・四（享保四年一月から十二月）・七（享保六年一月から十二月）・八（享保七年一月から十二月）・十（享保八年一月から十二月）・十二（享保九年六月から十二月）・十三（享保一〇年一月から十二月）・十四（享保一一年一月から四月）。
- 3 『大本山くろ谷金戒光明寺宝物総覧』（金戒光明寺、二〇一一）三〇七頁。
- 4 『増上寺史料集』六、五七二頁。

上田藩主松平家の浄土宗信仰について（石川）

- 5 『松平氏史料集』（上田市立博物館、一九八五）二七頁。
- 6 『増上寺史料集』六、五七二頁。
- 7 『上田藩主松平忠周一代記』（上田山なみの会、二〇〇〇）二三頁。
- 8 『知恩院史料集』七、四六頁。
- 9 『歓喜公実録』二。
- 10 『知恩院史料集』七、五六頁。
- 11 『知恩院史料集』七、五四頁。
- 12 上田市立博物館蔵 少数文書一二六。註1拙稿参照。
- 13 『祐天寺年表』2（祐天寺、二〇〇〇）八七頁。
- 14 『知恩院史料集』七、三四頁。
- 15 『知恩院史料集』七、八一頁。
- 16 『知恩院史料集』七、一一三頁。
- 17 『知恩院史料集』七、一一八頁。
- 18 『歓喜公実録』十三。
- 19 『歓喜公実録』十三。
- 20 『大本山くろ谷金戒光明寺宝物総覧』三〇〇頁。
- 21 『上田藩主松平忠周一代記』二一七頁。

〈キーワード〉 松平忠周、藤井松平家、金戒光明寺
（大正大学総合佛教研究所研究員・祐天寺研究員）